

XTZ750 Super TENERE

1989年 / 市販車

ラリーレースの代名詞と言えるパリ・ダカールラリー。フランスのインポーターであり、ジャン・クロード・オリビエが率いるソノートヤマハが1979年の第一回大会ではXT500をベースに、大型化されたタンクを纏い、総合優勝を果たす。

1983年にそのノウハウをベースに30リットルの大容量タンクのXT600 Tenereが市販され、その後、XT600Z Tenere XTZ660Tenereへと「アドベンチャー」モデルの開発が行われ、1987年には「OW93」と呼ばれるファクトリーマシンの「YZE750 Tenere」が開発を始動された。そして、このモデルを参考に、市販車のSuper Tenereが開発され、更にそれをベースに設計されたファクトリーマシンの「YZE750T Super Tenere」は1991年のパリ・ダカールラリーで1～3位独占の成果を上げた。

市販車では「サバンナで他車を凌駕する」「2時間以上、快適に150km/hの巡航が可能」この二つのキーワードを元に、石から削り出したかのような頑強な造形の印象を持たせながら、全体としてはスピード感を感じさせるデザインの両立を図っている。大胆に上下に分割されたカラーリングも、その印象に大きく貢献している。

